**Ⅳ　考慮した視点と将来像**

**１．考慮した視点**

おおさか農政アクションプランの成果と課題、兆しと長期的な社会情勢を踏まえて、新たに考慮した視点を以下のとおりとします。

①農業を大阪の重要な産業と捉え、「農業ビジネス」として高める

* ＪAをはじめ様々な団体や企業とともに、農業者の規模拡大や経営の高度化を図り、農業のビジネス化を推進することで、農業を大阪の重要な産業として育て、地域経済の活力を高めていく。
* 大阪産（もん）を全国ブランドとして確立し、海外を含め販路を拡大するとともに、インバウンド消費の拡大に努める。
* 農業のビジネス化により、若者にとっての職業としての魅力を高め、シニアにとっても転職や再雇用の選択肢となる、やりがいのある仕事にする。

②多様な主体との連携により「農業」と「関連産業」のイノベーションをめざす

* 大学や環境農林水産総合研究所などの試験研究機関や中小企業、ベンチャー企業などと連携を図り、スマート農業や6次産業化、農商工連携等を推進する。

③大阪産（もん）の地産地消で府民と農業者、事業者の満足度を上げる

* 川上・川中・川下（生産・加工・流通・消費）をつなげ、大阪産（もん）の農産物やその加工品の家庭や飲食店での利用を拡大する。
* 生産者と消費者の互いに顔の見える関係を深化させる。

④他分野・異分野とも連携し農業・農空間に新しい価値や機能を産み出す

* 防災、景観、健康、福祉、教育、環境などの分野と農業を結びつけ、新たな価値や機能を発揮させる。
* 農空間の保全活動や農業体験等を通じて、府民が農空間の魅力を感じることにより、大阪農業・農空間の応援団になる。
* 府民が農業・農空間と関わる中で、その価値を知り、次の世代にその大切さ伝えていく。

**２．将来像**

大阪府新農林水産業振興ビジョンの基本目標『府民とともに目指す豊かな「食とみどり」の創造』の実現に向け、重視する考え方を踏まえ、府民のみなさんとともに様々な場面で農を活かし、農業・農空間が有する農産物の生産・供給を基礎とした多様な機能が発揮され、次代に継承していくことを将来像として設定します。

**府民とともに未来へつむぐ豊かな「農」**